

平成15年度競技本部報告

平成15年度競技本部事業は関係各位の皆様のご支援、ご協力を頂き無事終了する事が出来ました。ここに深く感謝申し上げます。

今期はアルペン事業の県選手権、チャレンジカップの2事業を現地委託とし運営経費の削減に努めました。今後懸念される役員不足等を考え完全委託に向け準備を進めていきたいと考えております。又、普及につきましては、アルペン競技者管理登録数が昨年同様の登録があり、競技会において参加者が減少した競技会もあったものの全体的には増加傾向にあります。これは、新たな競技者層発掘として、より開かれた競技会運営を行なった成果の表れと思います。ノルディック部では、古き良き時代の再来と活性化を目標に、新たな試みとして歩くスキーを妙高高原で開催しました。初開催のため参加者数は33名程度でありましたが、反応も良く、開催にひと工夫すれば今後参加増員が望める事業と思われる。フリースタイル部の事業は優秀な専門委員の努力で国内でもトップレベルの競技会を開催しておりますが、今期は初めて参加選手の減少が目立ちました。ノルディック、フリースタイル各部とも今後益々参加者減少が進むと判断し、私たちも競技会のあり方を見つめ直し、長く競技者の活性化、普及に努力する所存です。又、各部で開催している競技会も予定通り開催されました。しかし、アルペン競技会においては、マテリアルの進歩による選手の高速化に比例して傷害の発生も増加してきております。アルペン競技に限らず、選手の安全を最優先と考え、運営指導者の育成を強化し、競技役員の資質の向上についてもこれまで以上に努めます。又、委託事業である県総体については、今期から会場が白馬に移りましたが、関係各位のご理解で混乱なく無事終了する事ができました。県総体についても今後諸問題の解決を含み活性化に向け努力致します。

クラブ対抗については年々クラブチームの参加が増加し、特に駅伝大会については、各方面で関心が高まり活性化がなされつつあります。

選手強化について、アルペンで延べ12日間の合宿と各種大会でジュニアの部を積極的に取り入れ、徐々にではありますが育成の成果は出てきております。ジュニアの普及については、各地域で活発に行われてきており底辺拡大に明るい兆しが見え始めました。また、シニア強化については、目標を国体一本へと絞り、短期強化としましたが、山形国体では残念ながら期待通りの結果を残す事が出来ませんでした。代表選手の競技力は、他に劣らぬものの、国体というプレッシャーに弱い選手が多く、今後は、精神面、モチベーションを高める等、安定した成績が残せる様に育成してまいります。

強化コーチ、大会運営の指導者の育成については、昨年2回のセミナーを開催し、元全日本女子卓球コーチ(ナショナルコーチ)を招き、指導者の権利と義務についての講義を、今期から国体で導入されるドーピング検査に対応するため、体協から派遣頂いたドクターに細かく講演して頂きました。競技運営管理について、長野五輪女子種目競技委員長の丸山仁也氏を講師に招き、競技会の運営について講演していただきました。以上2回の指導者育成セミナーは部外から講師を招きましたが、今後も情報収集などの面に力を入れていきたいと思っております。

今期から再度スノーボード部の一部が競技本部に加わり、多種多様な事業に取り組むわけですが、競技本部全体一丸となって努力してまいりますので、今後とも皆様のご支援ご協力を頂きたいと思っております。